



第 81 号 令和4年8月

編集発行 庄内教育事務所 指導課  
〒997-1301  
東田川郡三川町大字横山字袖東 7 番 1 号  
Tel.0235-68-1982/FAX0235-66-3015

## いじめ・不登校未然防止推進事業 地区協議会①

5月26日(木)に今年度1回目の庄内地区いじめ・不登校未然防止推進事業地区協議会を開催しました。今回は、弁護士の加藤 栄先生を講師に迎え、「**学校が抱える苦慮する事例からリスクマネジメントを考える**」をテーマに研修会を行いました。参加総数84名となり、庄内全体としての研修会を開催できましたことを感謝申し上げます。

### ◆講話要旨

そもそも教育活動はリスクを内包し、リスク回避を偏重すれば子どもの個性を押し殺し、子どもに対する画一的な教育に陥ってしまう。問題場面に対処しようとするればリスクを伴う。リスクと目的の調和が必要だが、そのためには幅広い情報収集が重要であること。教師は、目の前の子どもたちのよりよい成長を願う関係者の力を大いに活用し、人間の尊厳を尊重し、よりよい生き方を理想に日々の教育活動に取り組んでほしい、旨の講義を頂きました。

### ◆参加者の感想より(一部抜粋)

- ・加藤先生ご自身の体験に基づく事例だったので、言葉の重みが違うと感じました。(小生徒指導主任)
- ・私たちは、最大の注意はしつつも、リスクを恐れ過ぎず、子どもたち一人一人がよりよく成長できるように支援していきたいと思いました。(小特別支援C0)
- ・学校はリスクを恐れず、面倒に巻き込まれたくないと思わず、管理職もどんどん出ていくべきだ、というところにその通りだと思いました。リスクと問題解決の調和という部分で、地域人材など遠慮なく頼るべきというのも同意見です。(小教頭)
- ・PTAの方々をはじめ保護者の皆様の方が、はるかに視野が広いと思います。そんな方々の手を借りないという手はない!と、目からうろこが落ちる思いでした。みんなで子どもたちを見ていくのだという温かさが、子どもたちにも伝われば、正しい方向へと進むことができると感じました。(中特別支援教育C0)

## 魅力ある学校づくりに庄内教職員の力を結集して

令和3年度の山形県管内のいじめの認知件数は小学校、中学校共に前年度より増加しました。これらは積極的ないじめの認知とともに、いじめを見逃さず、組織で対応する体制づくり、そして再発防止に向けた事後指導が丁寧になされていると感じております。

一方で、不登校数についてはR2年度までの内容となりますが、不登校の要因がより複雑化、多様化している中で生徒一人一人に丁寧に対応いただいております。そして、新規の不登校児童生徒を出さない、楽しく魅力ある学校づくりに継続して取り組んで頂いております。すぐに成果が出るものではありませんが、地道に、力強く、いじめ・不登校の未然防止と初期対応・継続指導、そして魅力ある学校づくりに庄内教職員の力を合わせていきましょう!

### ◆いじめの認知件数

山形県管内

	R 元年度	R2年度	R3年度
小学校	9975	10363	11252
中学校	2439	1773	2040

### ◆不登校児童生徒数(30日以上欠席) 山形県管内

	R 元年度	R2年度
小学校	278	344
中学校	875	882

※R元、R2年度は文科省HP 問題行動・不登校等調査結果、R3年度(いじめ件数)は県独自調査(1期~3期)年間報告(速報値)より

# 新時代の英語教育推進事業2年目!

昨年度から、英語を用いたコミュニケーション能力の育成を図るため、県内で20名の小中学校の先生方を「英語教育実践リーダー」として任命し、実践研究をお願いしています。庄内教育事務所管内では、今年度、4名の先生方に実践研究をお願いしています。

### 実践研究の主な内容

- ①リーダー同士の相互授業参観による研修
- ②外部講師によるオンライン研修会
- ③公開授業研究会による指導実践の発信・共有

庄内地区では、今年度11月に公開授業研究会を予定しております。後日、案内を送付しますので、ぜひ御参加ください。

### 自分の考えや気持ちを、 英語で話す力を付けるためのポイント

#### 《インプット》

- ・文脈の中で新出表現の「意味・文構造・使われる場面」に気付くことができるようにすること

#### 《アウトプット》

- ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況等に  
応じて表現できるようにすること



### 新時代の英語教育推進事業では

#### 目指す子ども像

#### 英語で自分の考えや気持ちを精一杯伝え合う子ども

小学校:自分のことや身近なことについて、英語を使って伝え合う児童  
中学校:日常的・社会的な話題について、聞いたことや読んだことを基に自分の感じたことやその理由などを伝え合う生徒

#### 目指す授業の姿

#### 聞く・読む・話す・書くことの4技能が十分に高まり、もっと英語を使いたいと思える授業の実現

小学校:十分なインプットを基に、英語でのやり取りを大切に授業  
中学校:既習表現を活用して、生徒自身が使用するべき表現を思考・判断する授業

#### 対応

#### 英語を用いたコミュニケーション能力の育成に向けた、教師の指導力向上

- 1 求められている英語教育を実践していく実践リーダーの育成
- 2 具体的な取組みを基にした実践や英語指導に関する情報の県全体への発信と共有

## 初任者研修 第1回授業研究よい(7/5)

今回は小学校3校(朝陽第四小学校、若浜小学校、十坂小学校)、中学校2校(鶴岡第四中学校、酒田第三中学校)の6名の初任者の先生方の授業を参観し、研修を行いました。

分科会では、子供の姿(反応・つぶやき・表情・記述等)からその背景にある手立てについて考えたり、「的確な児童理解」「深い教材研究」「子どもの心を動かす指導」の3つの視点で類型化したりすることを通して、学びの主体は「子ども」であること、子どもたちにどのような力をつけたいかを明確にした授業づくりについて学びました。

また、会場校の校長先生から、初任者の授業づくりに向けて、校内OJTの活性化につながったというお話もいただきました。初任者研修を学校全体で支えて頂き感謝申し上げます。



## 学校の働き方改革を踏まえた部活動改革に向けて

スポーツ庁の「運動部活動の地域移行に関する検討会議」での提言に基づき、山形県教育委員会では、「生徒にとって望ましいスポーツ環境の構築」と「教員の働き方改革の推進」の両立を目指し、検討を重ねているところです。改革の一環として、県では国の事業を活用し、「休日の部活動の段階的な地域移行」「合同部活動の推進」に関しての実践研究を行っています。今年度、新たに藤島中学校と小国中学校を実践研究校とし、休日の活動を総合型地域スポーツクラブに移行する研究に取り組んでいます。各市町では検討組織を設置し、部活動の段階的な地域移行に向けた話し合いが行われており、取り組みが進められていることに感謝いたします。地域の「受け皿」となるスポーツ団体や指導者の確保など課題はたくさんありますが、部活動の意義を大切にしながら改革の目的実現に向けて、各市町、学校、地域、県教育委員会等が連携し、引き続き取り組みを進めていきます。

### 【令和4年度 県の取り組みについて】

- ・実践研究の継続と拡充(鶴岡市・小国町・高校)
- ・運動部活動と地域等の連携の在り方に関する検討委員会の開催
- ・実践研究校の成果と課題を踏まえたモデルケースの作成・公表

※ 詳細については、リーフレット「部活動改革のイメージ」(県のホームページ)や、説明動画「山形県における運動部活動改革について」(YouTube【県公式】やまがた Channel)をご覧ください。

